

ハンブルク、ベルリンにおける先進的な交通体系づくりの事例調査

Advanced Transportation Initiatives in Hamburg and Berlin

木全淳平¹ 蛸子 哲² 石神孝裕³ 牧村和彦⁴

Junpei KIMATA, Akira EBIKO, Takahiro ISHIGAMI, and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

本稿ではハンブルクおよびベルリンで調査した先進的な都市交通の取り組みについて報告する。

2 気候変動を抑制するためのモビリティ変革（ハンブルク）

ハンブルクでは気候変動へニュートラルな交通社会を実現するためのモビリティ変革プラン「Hamburg-Takt」に取り組んでいる。同プランにおいて、アプリの開発など中心的な役割を果たす交通事業者であるHamburger Hochbahn AGらへのヒアリングを行った。

同プランはアプリで統合された各種交通手段へ全市民が5分以内でアクセスできることを目指している。筆者らも滞在中に幾度も利用した乗合型デマンド交通のMOIA（写真-1）もその一翼を担い、需要が既存公共交通には見合わない移動に対応する。MOIAを含め取り組みは多岐に及ぶが、目的は一貫して気候変動対策と強調されていた。我が国の諸計画では複合的な背景や目的を挙げるのが通例であるが、広く共有され得る強力な一つの思想で幅広い主体と連携を図り、マルチモードを統合していく取り組みのように感じた。



写真-1 ハンブルクで利用した MOIA（筆者撮影）

3 市民運動を端緒としたモビリティ法とJelbiの取り組み（ベルリン）

ベルリンでは交通安全、公共交通、歩行環境、都市内物流など多岐にわたる交通環境のアップデートの計画であるBerlin Mobility Actについてヒアリングを行った。

特徴として行政計画ではなく州法としたことで政治的な裏付けを持ち、予算や人員確保の実効性担保、市民に対する透明性の向上を図っている。端緒は自転車を利用しやすい環境の構築を求める市民運動に始まり、この運動が発展し都市交通政策全般を対象とする法となった。交通に関する市民の関心の高さと、そのことが実効性のある形で社会に実装されるドイツの市民社会の力強さを感じた。

続いて、同市交通局であるBVGにもヒアリングを実施した。BVGはJelbiと呼ぶ統一したブランディングでアプリ（バーチャル）とモビリティハブ（リアル）を開発、展開している。また、モビリティハブの設置空間の確保等で連携する市内各地の地元パートナーを獲得している。移動を便利にしながらアプリを介して市民の活動・生活を繋いでいくことは、MaaSにおける重要な思想であると思うが、これを統一されたブランディングで強力に体现している取り組みと感じた。

4 おわりに

気候変動への関心や市民と行政の関係など社会の在り方等の違いから、日本にそのまま移植するストーリーとはならないものの、都市交通が社会の中で果たすべき役割を見定め、着実に新たなシステムを都市レベルで実装していることは、日本も意識せざるを得ない。そのように感じられたことは本調査での学びであった。

最後に（実は筆者は私的な都合で昨年からドイツ在住であり、その立場から）敢えて触れるが、近年ドイツで鉄道と言えば遅延である。更には電車が「消える」（突然運休すること）もしばしばある。アプリで統合された移動体験には大きく感心した一方、時刻表通りに運行されなければ絵に描いた餅である。日本における運行の安定性は、日本が追い付いていない部分をまだ何とか埋め合わせているようにも感じている。

¹ 都市地域・環境部門 研究員 ² 都市地域・環境部門 研究員 博士（経済学）

³ 都市地域・環境部門 部門長兼グループマネージャー 博士（工学） ⁴ 業務執行理事、研究本部企画戦略部長 博士（工学）